

米国ハワイ州 Kuakini Medical Center 留学報告書

佐賀大学医学部医学科（6年） 04211009 岩田悠里
yuri.sagamed@gmail.com

はじめに

この度 2009 年 6 月、米国ハワイ大学医学部の提携病院である Kuakini Medical Center にて臨床実習をさせて頂きました。佐賀大学医学部・米国ハワイ大学医学部の学生教育国際交流のプログラムの一環として本学から毎年 2 名留学することができ、今年は同級生の佐川尚子さんと参加させて頂きました。この素晴らしいチャンスを下さった先生方、応援して下さいました佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会の皆様、家族と友人達には、この場をお借りして深くお礼申し上げます。
この報告書を通して、応援して下さいました皆様に 4 週間で学んだことをお伝えすることだけでなく、より多くの皆さんにこのプログラムへの興味・関心を持っていただければ幸いです。

目次

プログラム概要

Kuakini Medical Center

導入～医療面接・身体診察入門～

内科チーム

留学生としての制限…それでも学べることは多い！

恐怖の（！？）Tokeshi 道場

ハワイで学んだこと



ハワイ大学の学生（左 3 名）および
共に留学した佐川さんと（右）

プログラム概要

場所：米国ハワイ州 Kuakini Medical Center

期間：2009 年 6 月 1 日（月）～6 月 26 日（金）の 4 週間

内容： 3 週間（週 6 日×3） Kuakini Medical Center の内科チームに配属される。

1 週間（7 日間） 家庭医である Dr.Tokeshi につき、臨床実習を行う。

費用：宿泊費（\$800）+ 交通費（¥70,000）+ 食費 + 娯楽

Kuakini Medical Center(KMC)

KMC は日本からの移民により作られた病院のなかでも唯一現在まで続いている病院であり、その歴史は 100 年にもおよびます。急性期病棟が 250 床という小さな病院ですが、患者の入れ替わりが激しく、経験する疾患は多種多様です。

私達は病院の裏にあるアパートで生活していました。ワイキキとはまた違うハワイの顔を見ることができる下町で、夜 1 人で出歩くには決して安全な場所とは言いきれませんが、スーパーやバス停が近くにあり、生活するには快適な環境でした。

導入～医療面接・身体診察入門～

実習初めの 3 日はハワイ大学医学部にて医療面接・身体診察のトレーニングを受けました。初日には身体診察のビデオを見ながら診察の順序や言葉遣いを頭に叩き込み、2 日目には模擬患者の身体診察を 30 分で、バイタルサインから頭頸部、胸部、腹部、神経系まで一通りできるようにならなければなりません。その後、自分の身体診察をビデオで見直しながら自己採点をしました。3 日目には 1 時間かけて模擬患者の医療面接・身体診察をおこない、さらには症例レポートをまとめました。私たちはこれを 3 日間という短期間で行ったため非常に密なトレーニングでありましたが、ハワイ大学の学生も、一定水準を保つためにこのような厳しいトレーニングを受けています。アメリカのマニュアル社会を実感した一面でもありましたが、留学生としてはその国のやり方をしっかりと教えて頂ける機会が非常に有難く感じました。

内科チーム

4 週間のうちの 3 週間、佐川さんとは別の内科チームに配属され、臨床実習を行いました。各チームは研修医（レジデント）2 年目、1 年目、ハワイ大学 3 年生の 3 人構成でした。4 日に 1 度ある当直は朝 7 時から翌朝の 7 時までで、その間の新規入院は全て当直をしているチームの担当となり、夜間は他チームの患者さんも受け持つこととなります。そのため内科全般に対応できる知識・スキルが求められます。

もちろん全てが研修医に押し付けられているのではなく、循環器、消化器、腎臓内科などの専門医が患者さんの担当医として存在します。しかし、担当医の先生方は外来などもされているため忙しく、担当患者が入院している間 1 日に 1 回は患者さんに会いに来るものの、それ以外は研修医にまかせているという形になっています。

毎日の大まかな予定としては以下の通り：

5:30～ 1 人で回診・カルテ記載

7:00～ チーフレジデント（研修医のリーダー）に全患者について報告

7:30～ 朝ご飯を食べながらのカンファレンス・症例検討など

8:30～ 業務開始

11:30～ ICU 回診－主にレジデント・学生の勉強のための回診。

ICU に入院している患者さんについて ICU 専門医とディスカッションをする。

15:30～ 当直チームへの引継ぎ、帰宅。

研修医 1 年目は 2 年目よりも、学生は研修医 1 年目よりも早く病棟に行き、患者の状況を把握することを心がけていました。私も慣れないうちは毎日 4:00 にスタートしていました。学生は医師についていくだけの存在ではなく、チームの一員であり、様々な事務作業にも追われる研修医の役に立とうとしていました。また、担当患者が 10 名以上いる研修医と比べ、学生は 1~2 名しか担当患者がいなかったため、「研修医よりも患者を把握していて当たり前」という意識が浸透していました。求められることは多く、とてもチャレンジングな生活でしたが、1 年後にはこれが当たり前にならなければいけない！と思うと、非常に良い訓練となりました。

留学生としての制限…それでも学べることは多い！

私たち留学生はカルテへの記載および一人での患者さんの診察が禁止されているため、今回の実習はほとんど「見学」と聞いていましたが、カルテは自分のノートに記載すれば先生にチェックしてもらうこともできますし、ちょっとした診察なら先生の許可をもらって一人で行くことも…！

例え診察が出来ないとしても、ルートは何本あるのか？どこでとっているのか？尿道カテーテルは？中心静脈は？顔色は？呼吸状態は？皮膚は？などと、患者さんに触れなくても見るだけでチェックできることはいくらかでもあり、それらを把握していることも当たり前のようによく求められました。

カルテは日本と同様、SOAP 形式（S : Subjective、患者の訴え等主観的情報。O : Objective、理学所見、検査所見等の客観的情報。A : Assessment、評価・分析。P : Plan、検査・治療計画。）で書きますが、研修医の先生のカルテを見ずに、なるべく自分で評価と計画を考えました。患者の問題点を挙げるプロブレムリストは毎日新しいものになり、研修医 1 年目は 2 年目より、学生は研修医 1 年目より、多くのプロブレムを挙げようと必死でした。各プロブレムに対し、必ず改善・悪化・変化なしの評価を書き、エビデンスに基づいた治療を一つ一つ書くよう指導されました。日本の医学部最高学年としていまさらカルテの書き方の詳細を指導されるのも情けないと思う反面、考え方およびカルテの書き方が身につく、どんどんカルテが研修医のカルテに近づいているのが自分でも分かり、達成感は得られました。評価・治療においては常に理由を求められ、エビデンスに基づくものでなければなりません。そのため各病棟には必ず UpToDate にアクセスできるパソコンがあり、研修医の先生も時には UpToDate を確認し治療を決めていました。患者のために常に学ぶ姿勢をとり続けることがアメリカでは求められていると強く感じました。

恐怖の (!?) Tokeshi 道場

ハワイ大学の学生も恐れる Tokeshi 道場…それはハワイ大学の学生が選択として行うことができる臨床実習ですが、あまりのきつさに、希望者は年に 1 人いるかいないかとのこと。その実態は、Dr.Tokeshi というアメリカで家庭医をされている日本人の先生につき、心身ともに鍛えられる臨床実習です。仕事熱心な先生は、アメリカの良き医師に贈られる賞を何度も受賞されています。先生との実習は毎日朝 3 時から始まり、一通り終わるのは夜の 7 時です。ただし、急患があればいつでも出動します。

一日の大まかな予定：

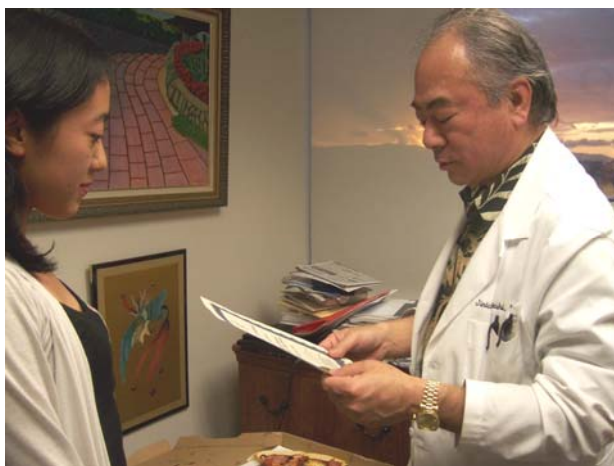
- 3:00～ 1 人で回診・カルテ記載
- 6:30～ 先生と回診
- 9:00～ 外来見学および予診（水曜日の午後は訪問医療）

18:00～ 先生と回診

19:00～ 帰宅

実習前に Tokeshi 道場マニュアルというものを頂きましたが、そのページ数はなんと 468！それを見たときは驚きましたが、内容は医師としての姿勢、先生の心に残る患者さんや医師、興味深い症例や、テーブルマナーまで！先生の学生に伝えたい思いがぎっしりとつまったマニュアルでした。

Dr.Tokeshi は留学生もハワイ大学の学生同様に扱います。そのため、1人での診察もカルテ記載もまかせられました。内科チームでカルテの書きの訓練がここで活かされました。



Tokeshi 道場修了式

患者の中には、一家全員で Dr.Tokeshi にかかっている方も多く、最高で 5 世代に渡り支えられている家庭もあるそうです。先生は「我々医師は、患者に尽くす存在である」という信念のもと生活されており、その思いが患者に通じているため、素晴らしい医師—患者関係を保ち、

「私の家族も診て欲しい」と思う患者が多いのだと思います。私も、Tokeshi 道場は決して楽な 1 週間ではありませんでしたが、先生のそのような姿を見て、頑張り続けることができました。

ハワイで学んだこと

佐賀大学の臨床実習は私が知るところでは他の日本の大学と比較して、指導熱心な医師、教育に協力的な患者によって支えられた、充実した実習だと思います。大学によっては、実習とは言え、ほとんどがレクチャーのところもあるようです。私は今まで佐賀大学の臨床実習に満足していました。

しかし、ハワイでは研修医レベルのことが当たり前のように求められ、自分の甘さを痛感しました。今までまじめに実習をしていたつもりが、まじめに「学生」として実習をしていただけで、「チームの一員」としては失格だったと思います。働き始めたら自然と研修医の先生のようになるのだろうと、カンファレンスなどが理解できなくても「まだ働いていないから分からない」と、無意識のうちに言い訳ばかりしていた臨床実習でした。もし臨床実習の間に研修医レベルを目指していたのであれば、佐賀の臨床実習もさらに充実したものとなったでしょう。今後はハワイで経験したことを活かし、生涯学習の姿勢で常に新しい情報を取り入れながら、患者に尽くしていきたいと思います。

これからハワイへ行こうと思っている、または悩んでいる方がいましたら、いつでも連絡ください。最後になりますが、この度は貴重な機会を頂き、支えてくださった皆さんに心からお礼を申し上げます。